

第15回 文化の戦略

最近よく耳にする言葉に「戦略」がある。2009年9月18日には新政権発足により国家戦略室が設置されたことは周知の通りだ。⁽¹⁾ もともと『孫子』(BC.5中頃-BC.4中頃)にその概念は使用され、ヨーロッパではクセノフォン(BC.430頃-BC.345頃)が軍隊で *Strategos*, *Strategia* を用いて、現在の「戦略」(*Strategy*)の語源になったと言われている。もともとは軍事の分野で使用されていた言葉も現在では組織論として用いられるテクニカル・タームとなっている。⁽²⁾ 文化交流においても一種戦略的文化交流という意味で「文化外交」という言葉が外務省を中心に積極的に用いられている。

(1) 文化発信戦略に関する懇談会について

2007年12月18日、文化庁長官裁定により文化発信戦略に関する懇談会が発足した。その趣旨は以下の通りである。

グローバル化の進展により、伝統芸能から現代の文化まで、多様な現代日本の文化を発信して魅力ある日本の姿を伝え、日本に対する諸外国の理解を深めることが強く求められている。また、そのことが、ひいては日本の文化芸能の振興にもつながる。このような状況の中、日本文化の総体や分野ごとの現状を把握した上で、効果的に発信する仕組みを構築していく必要がある。そこで、有識者による懇談会を開催し、日本文化の現状を明らかにするとともに、「日本の国際文化交流・協力を通じた文化発信の戦略を総合的に検討することとする」。⁽³⁾

日本の文化の戦略の特徴は「発信」の部分であろうか。かつてのジャポニスムにしろ、クール・ジャパンにしろ、日本文化に対する関心が寄せられているが、理解が高まっていない。従って、「伝統を有する独創的な文化を広く世界に発信することにより、我が国に対する理解を深めること」⁽⁴⁾ が求められよう。

文化発信戦略に関する懇談会のおもなメンバーを以下の通りである。

座長 山内昌之
顧問 遠山敦子
顧問 平山郁夫
顧問 福原義春
顧問 山崎正和

(2)『日本文化への理解と関心を高めるための文化発信の取組について』

文化庁は「文化発信戦略に関する懇談会」が2007年から2009年にかけてその内容をまとめたのが2009年3月に発表した報告『日本文化への理解と関心を高めるための文化発信の取組について』である。

「文化発信の意義」には古くはジャポニスム、最近の事象ではクール・ジャパンについて触れながら、次のように述べている。

現代文化は古くからの優れた伝統文化の蓄積の上に成立する連続性を持った存在であるにもかかわらず、とすれば断片的・部分的にし
か世界には知られていないのが現状である。

日本の悠久の歴史の中で蓄積されてきた重層的な文化が、総体として、より広く、より多様に世界に発信されていくなれば、さらに多くの人々から、日本そして日本文化への永続的な関心や理解、そして憧憬をも得ることができると確信する。⁽⁵⁾

「世界には知られていないのが現状」とある通り、

国をあげて戦略的に文化発信を推進するとともに、そのために必要な基盤整備を進めることが重要な課題である⁽⁶⁾

と、言うことだ。

では、文化発信の推進のために必要な基盤整備を進めるための取組とは何だろうか。同報告書には以下3点を指摘している。

- I 世界への文化発信の重点的な取組の推進
- II 国内における日本文化紹介の充実・強化
- III 日本文化を世界へ発信するための国内体制の整備

発信すべき文化としては「日本文化を伝統文化から現代文化まで」⁽⁷⁾が取り上げられている。こうした文化発信戦略は、文化外交、パブリック・ディプロマシーとセットとなってはじめて最大限にその効果があげられるのだ。文化発信戦略は「社会の活性化や経済振興」⁽⁸⁾に資するだけに現在のように経済が停滞している日本には必要なものかもしれない。

注

- (1) 「国家戦略室」(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokkasenryaku/>) (2009年11月22日)
- (2) 菊澤研宗『戦略の不条理』(光文社、2009年10月)、p.11.
- (3) 文化発信戦略に関する懇談会『日本文化への理解と関心を高めるための文化発信の取組について』(文化庁、2009年3月) (<http://www.bunka.bunkashingikai/konadnkaitou/bunkahasshin/>)の「資料」より。
- (4) Ibid., p.2.
- (5) Ibid., p.1.
- (6) Ibid., p.2.
- (7) Ibid., p.10.
- (8) Ibid., p.17.